

---

# RDMトレーニングツールの活用と展開

## 2017年度研究データタスクフォース活動報告

東京大学附属図書館 松本侑子

---

# 研究データTFについて

# 2017年度活動計画

---

1. RDMトレーニングツールの開発
  - ▶ 教材の公開と普及
  - ▶ JMOOC/gaccoでの開講（2017.11.15）
  - ▶ 持続可能な教材開発体制の確立
2. データベースレスキュー
  - ▶ データ移行の試行とワークフローの確立
3. データリポジトリ
  - ▶ データジャーナルの創刊から得た経験や知見をデータリポジトリの機能要件として整理
  - ▶ JAIRO Cloudのデータリポジトリ化に活用

# データベースレスキュー

- ▶ 琉球大学と協力してデータ移行の試行実験
- ▶ iPRES2017にてポスター発表

[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=49#\\_href\\_180](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=49#_href_180)



琉球大学附属図書館. 矢内原忠雄文庫. <http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/yanaihara/>

# データベーススレスキュー

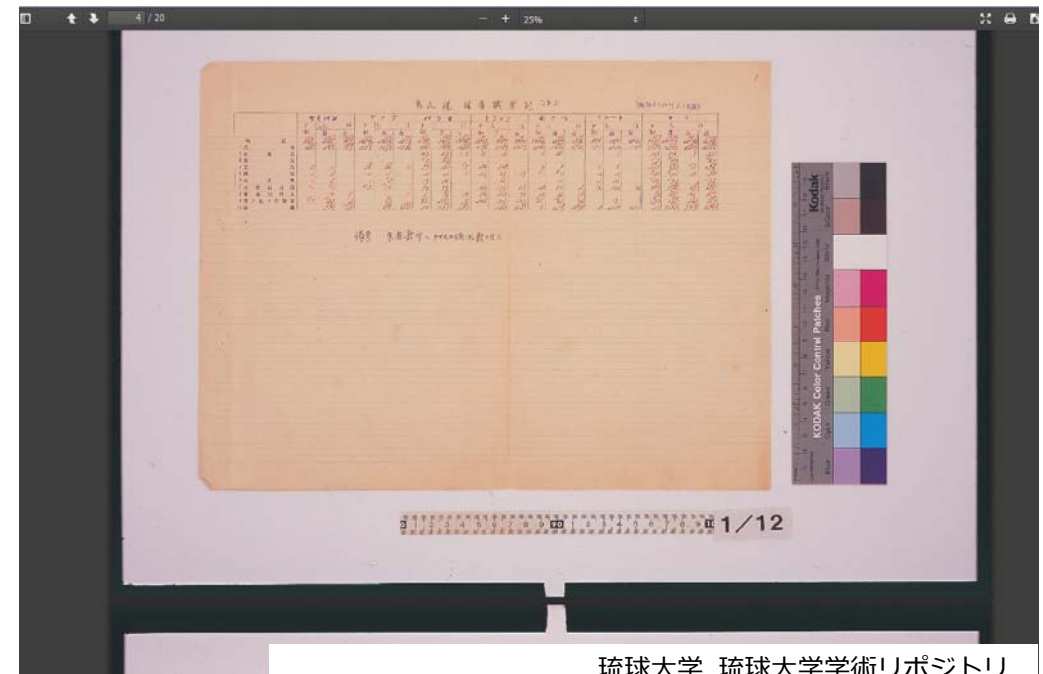
---

- ▶ 矢内原忠雄文庫の琉球大学学術リポジトリへの移行
- ▶ 移行前：<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/yanaihara/>
  - ▶ 682件登録（うち42件は目録情報のみ）
  - ▶ 高精細画像フォーマットLuraDocument（LDF）形式  
※閲覧用プラグインが開発停止
  - ▶ アジア歴史資料館（<https://www.jacar.go.jp>）にもメタデータ提供
- ▶ 移行後：<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/20.500.12000/2068?lang=ja>
  - ▶ 642件（うち6件は過去に未公開のコンテンツ）を公開
  - ▶ 互換性の観点から提供フォーマットをPDFに変更

# 移行前



# 移行後



琉球大学附属図書館. 矢内原忠雄文庫.

<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/yanaihara/>

琉球大学. 琉球大学学術リポジトリ.

<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/20.500.12000/2068?lang=ja>

---

# RDMトレーニングツールの普及

# RDMトレーニングツールの概要

---

## ▶ 目的

- ▶ 学習者が研究データ管理に関する基礎的な知識を習得する
- ▶ 研究データ管理サービス構築の足掛かりを得る

## ▶ 内容

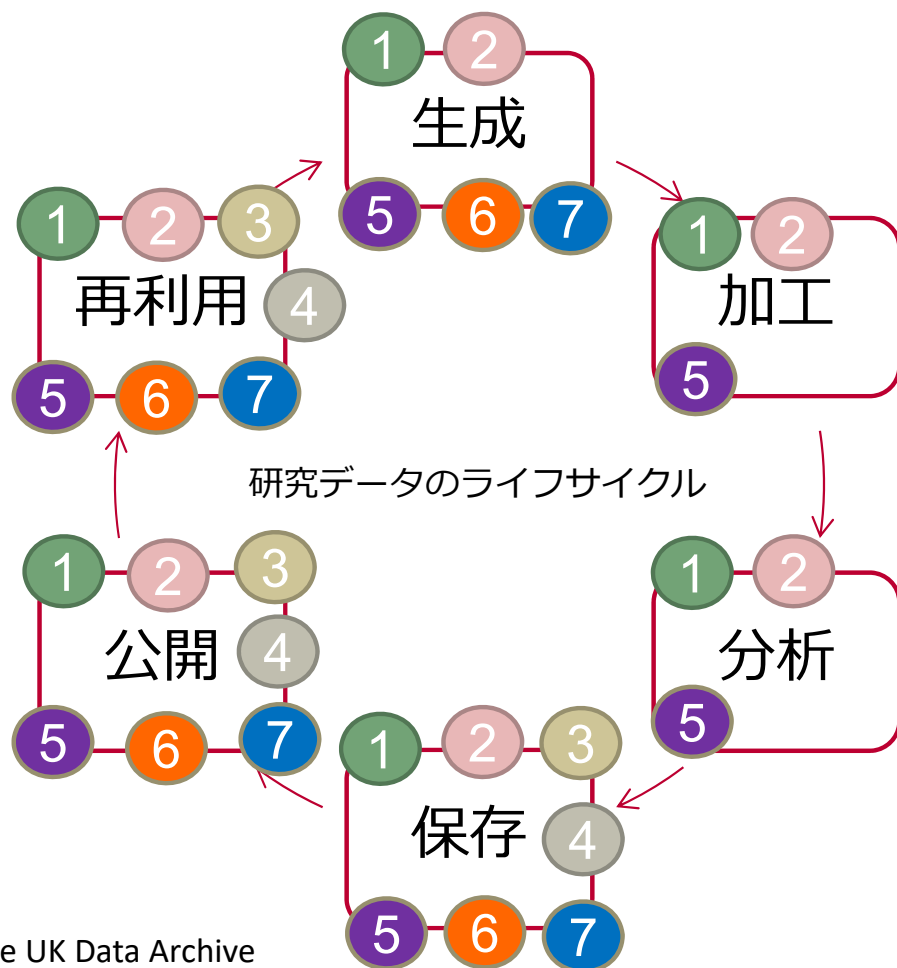
- ▶ 全7章から構成されるeラーニング教材
- ▶ 各章は、スライドと解説で提供し、随所に確認テストを折り込む

## ▶ 受講対象者

- ▶ 図書館、IT部門、研究支援部門の職員（URA）等
- ▶ オープンサイエンスや研究データ管理に関心のある教職員



# 教材の構成



- ① 1章 導入
- ② 2章 データ管理計画
- ③ 3章 保存と共有
- ④ 4章 組織化・メタデータ
- ⑤ 5章 法倫理的問題
- ⑥ 6章 ポリシー
- ⑦ 7章 サービスの設計

• The UK Data Archive  
( <http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle> )  
• RDM Support - basic training course for information specialists  
( <http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313> ) より

# 教材の公開

The screenshot shows the JAIR Cloud website interface. At the top, there's a header with the JAIR Cloud logo and navigation links. Below that, a search bar and a list of training tools are visible. The tools are listed with their names, download counts, and Creative Commons licenses. The page is in Japanese.

オープンアクセスリポジトリ推進協会. RDMトレーニングツール.

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000023/>

2018年3月14日

- ▶ 2017年6月6日  
スライドとスクリプト（説明の文章）をCC BYで公開
- ▶ 利用統計

年月	サイト閲覧回数	ファイルDL回数
2017.6	936	903
2017.7	286	342
2017.8	393	318
2017.9	429	308
2017.10	362	238
2017.11	515	301
2017.12	355	113
2018.1	313	131
2018.2	458	326
合計	4,047	2,980

# オンライン講座の開講

---

- ▶ オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」
  - ▶ JMOOCの公認プラットフォーム「gacco」で開講
  - ▶ 2017年11月15日から2018年1月15日まで
- ▶ 内容
  - ▶ 第1週：研究データ管理とは
  - ▶ 第2週：保存・共有・文書化
  - ▶ 第3週：メタデータ・法倫理的問題
  - ▶ 第4週：運用に向けて
- ▶ 制作：国立情報学研究所
- 協力：JPCOAR 研究データタスクフォース

# オンライン講座の開講

2017/08/18

オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」開講／JMOOCの公認プラットフォーム「gacco」で

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（所長：喜連川 優、東京都千代田区）は、一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進評議会（JMOOC）公認の配信プラットフォーム「gacco」[☑](#)で、無料オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」を本年11月15日から開講します。本研究所のMOOC講座開講は今回が2回目です。



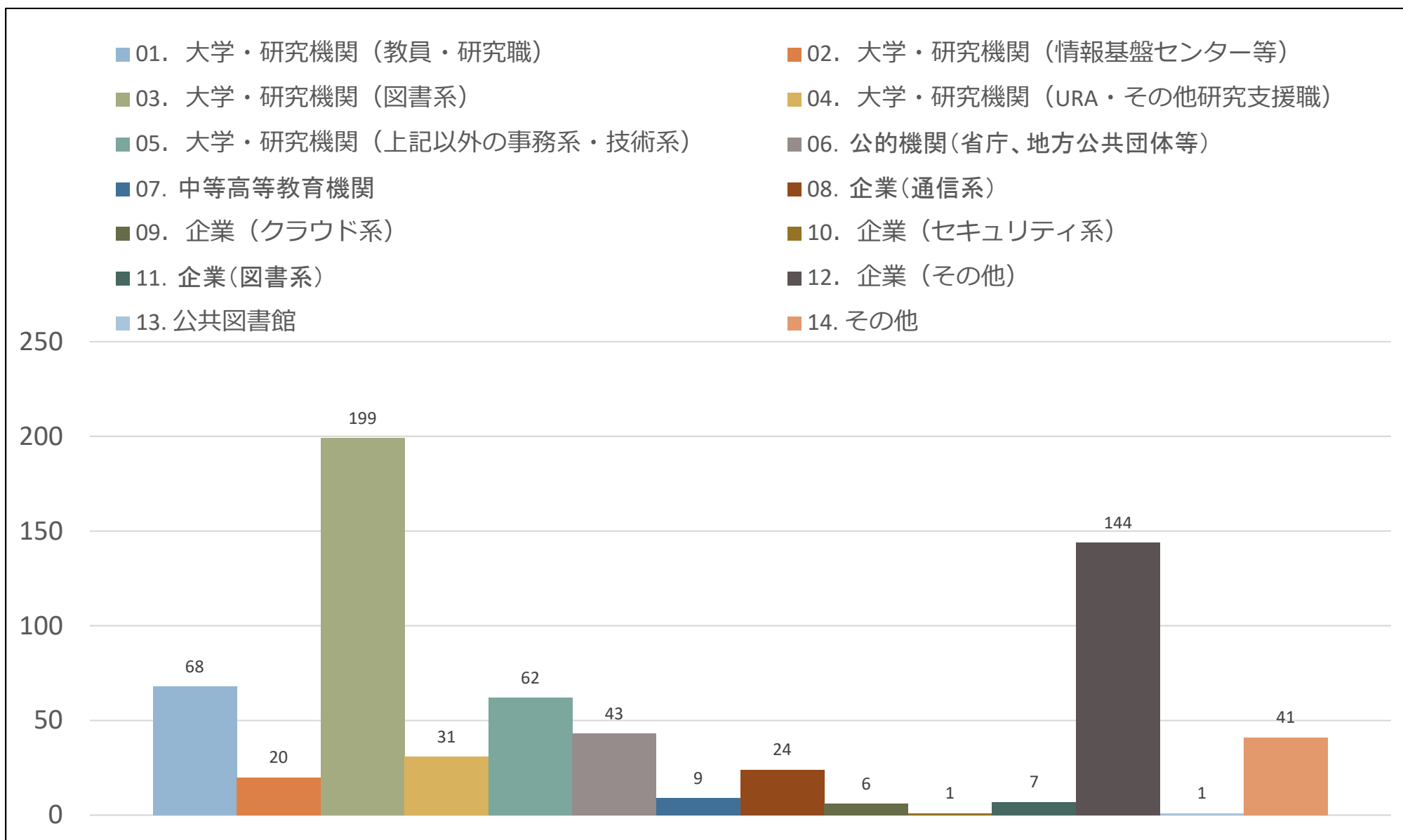
(2017/08/28更新)

国立情報学研究所,ニュースリリース: オンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」開講／JMOOCの公認プラットフォーム「gacco」で. <http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/handle/20.500.12000/2068?lang=ja>

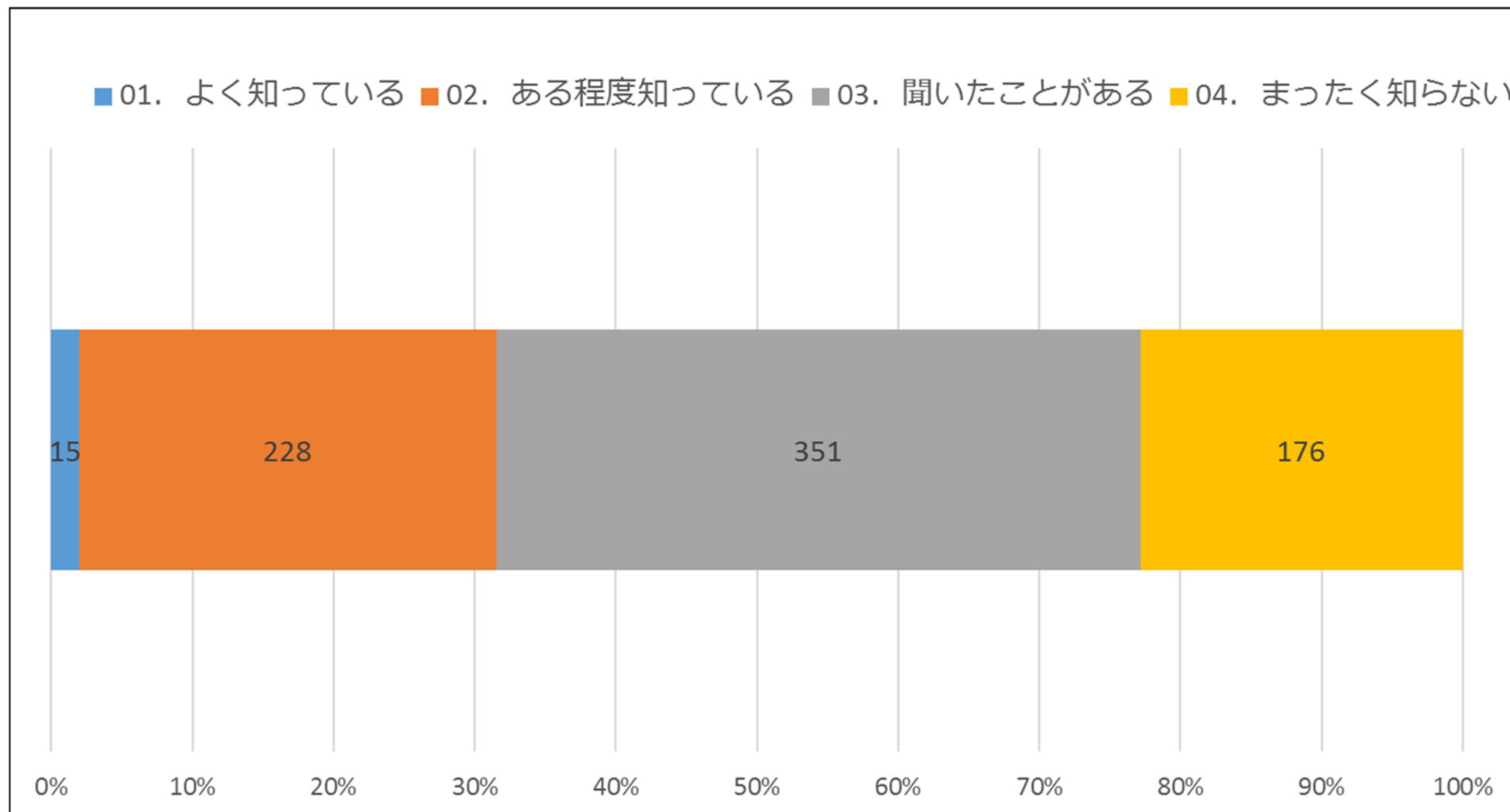
# オンライン講座受講者の反応

	受講者数	ディスカッションス レッド数	修了率
オープンサイエンス時代の研究データ管理	2,305	13	25%
gacco講座平均 (昨年平均)	4,145	73	15%

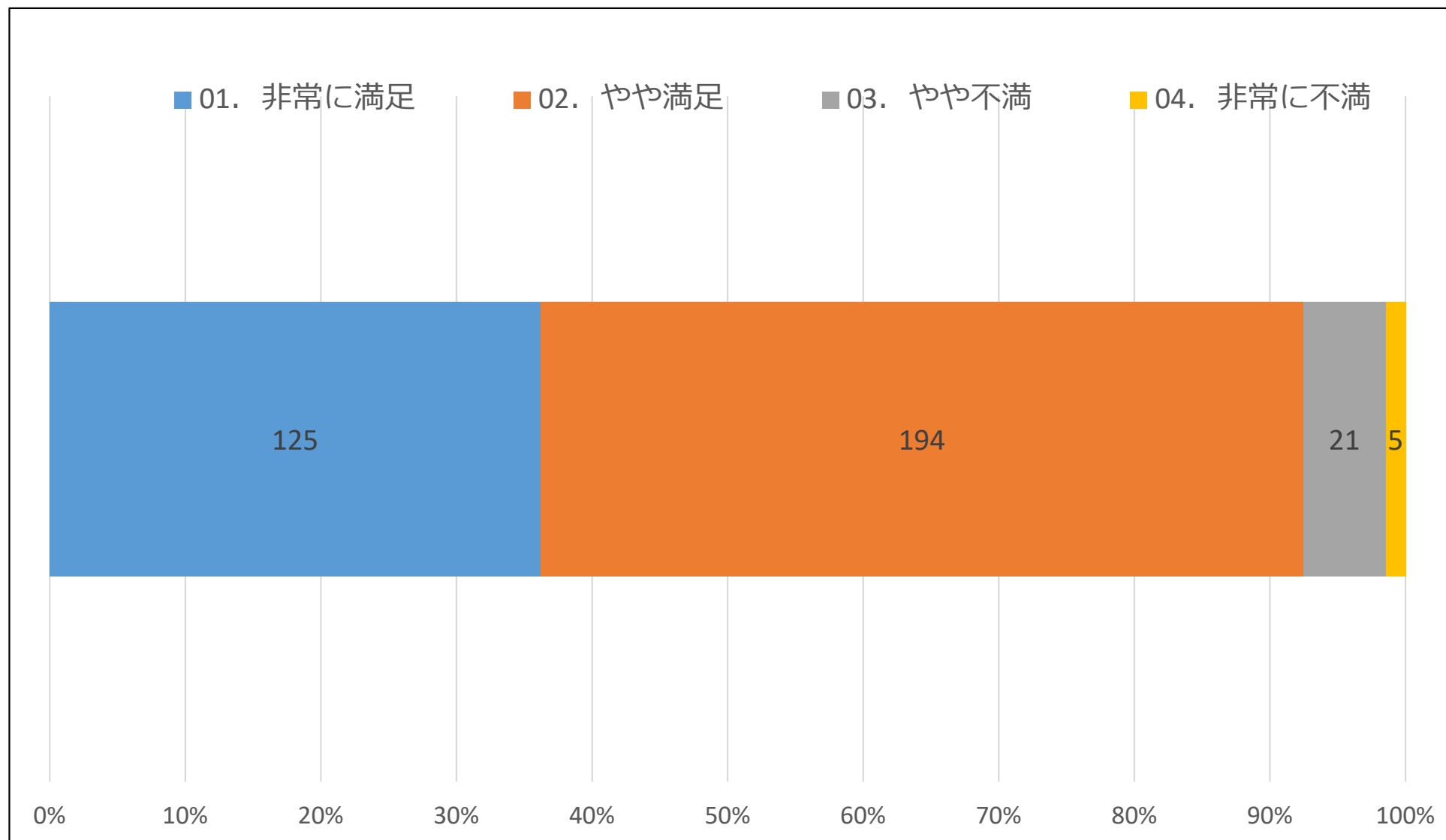
# ①開始前アンケート：勤務先



# ①開始前アンケート： 研究データ管理についてどれくらい知っていますか？

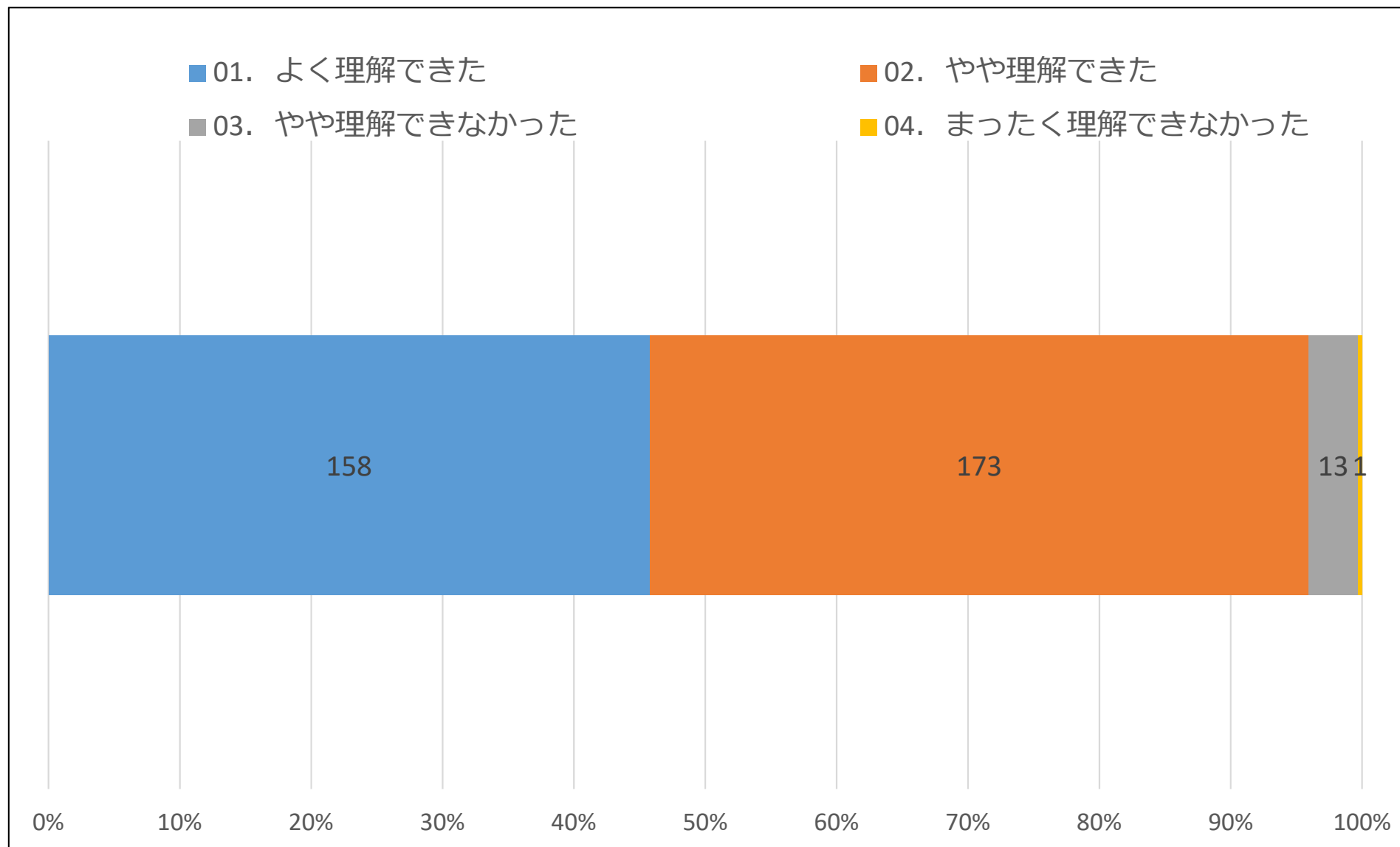


## ②受講後アンケート： この講座を全体的にどう思いますか

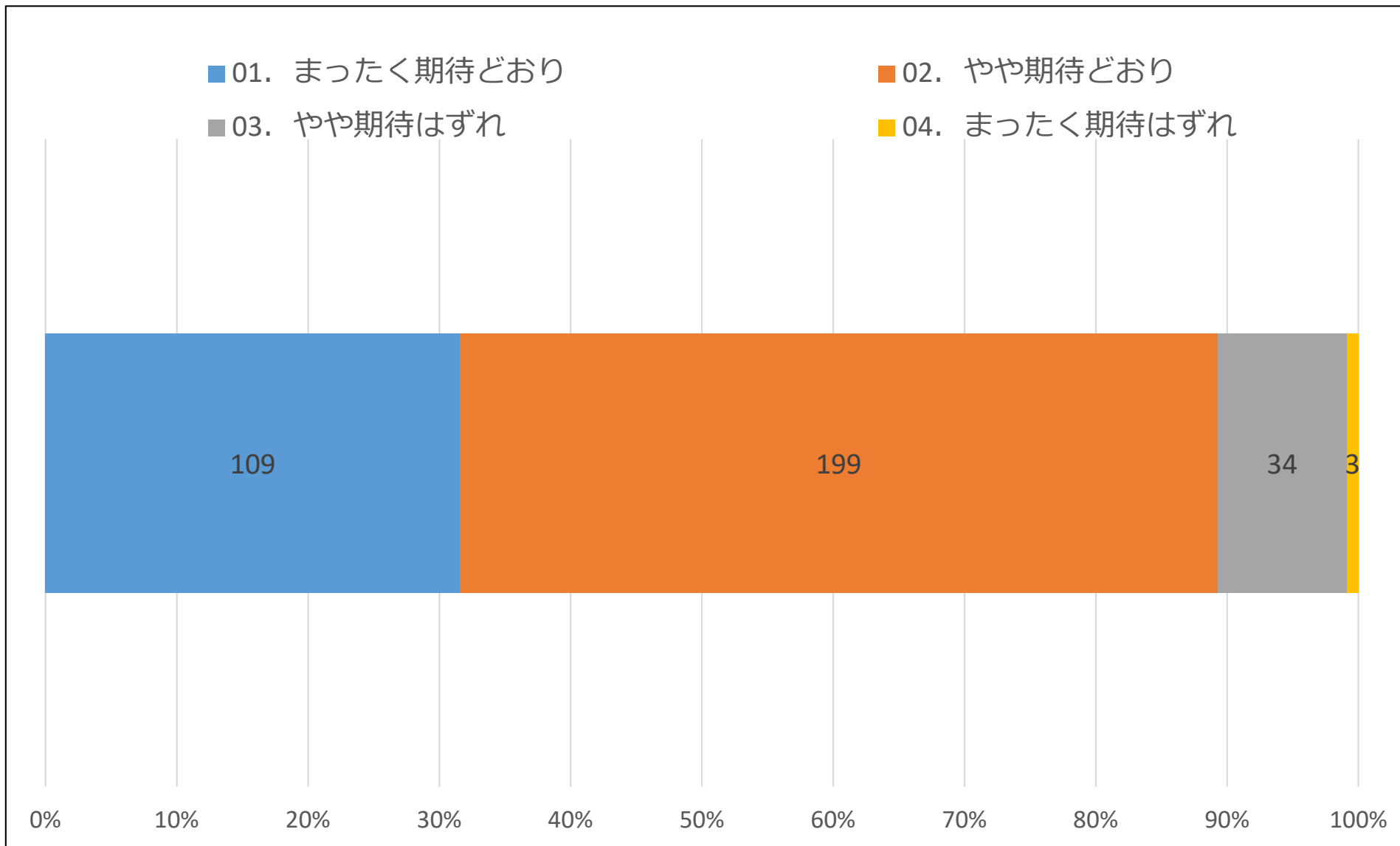




## ②受講後アンケート： 本講座の内容はどれくらい理解できましたか



## ②受講後アンケート：期待どおりでしたか

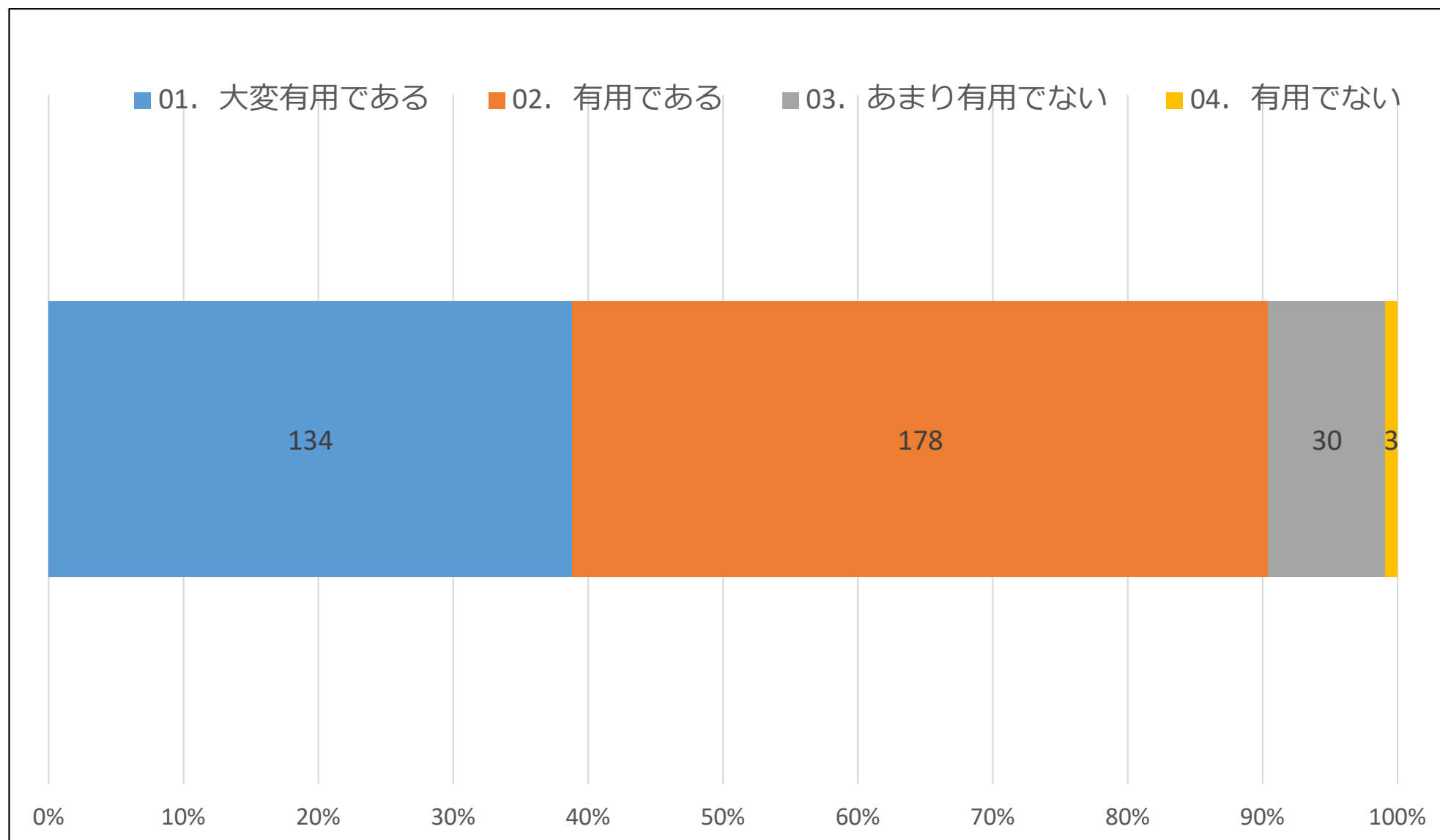


## ②受講後アンケート： 期待どおりでしたか(理由)

---

- ▶ まったく期待どおり / やや期待どおり
  - ▶ 研究データ管理の概要について系統立てて理解することができた
  - ▶ 研究データ管理という言葉が先行していたので、この講習を受けて「中身」を具体的に知ることができた
  - ▶ 今後の課題が明確になった
  - ▶ 思ったよりずっと内容が濃く、難しかった。国内外の状況もたくさん取り入れられており、大変参考になった
- ▶ やや期待はずれ / まったく期待はずれ
  - ▶ 内容はよいが、講義を講師ではなくナレーターが読み上げるのにたいへんがっかりした
  - ▶ 動画を全く見なくても、既存の知識と配布資料・参考文献だけで理解度クイズがクリアできてしまい、その点が期待はずれ

## ②受講後アンケート： 本講座の内容は、あなた自身にとって有用でしたか



## ②受講後アンケート： あなた自身にとって有用でしたか(理由)

---

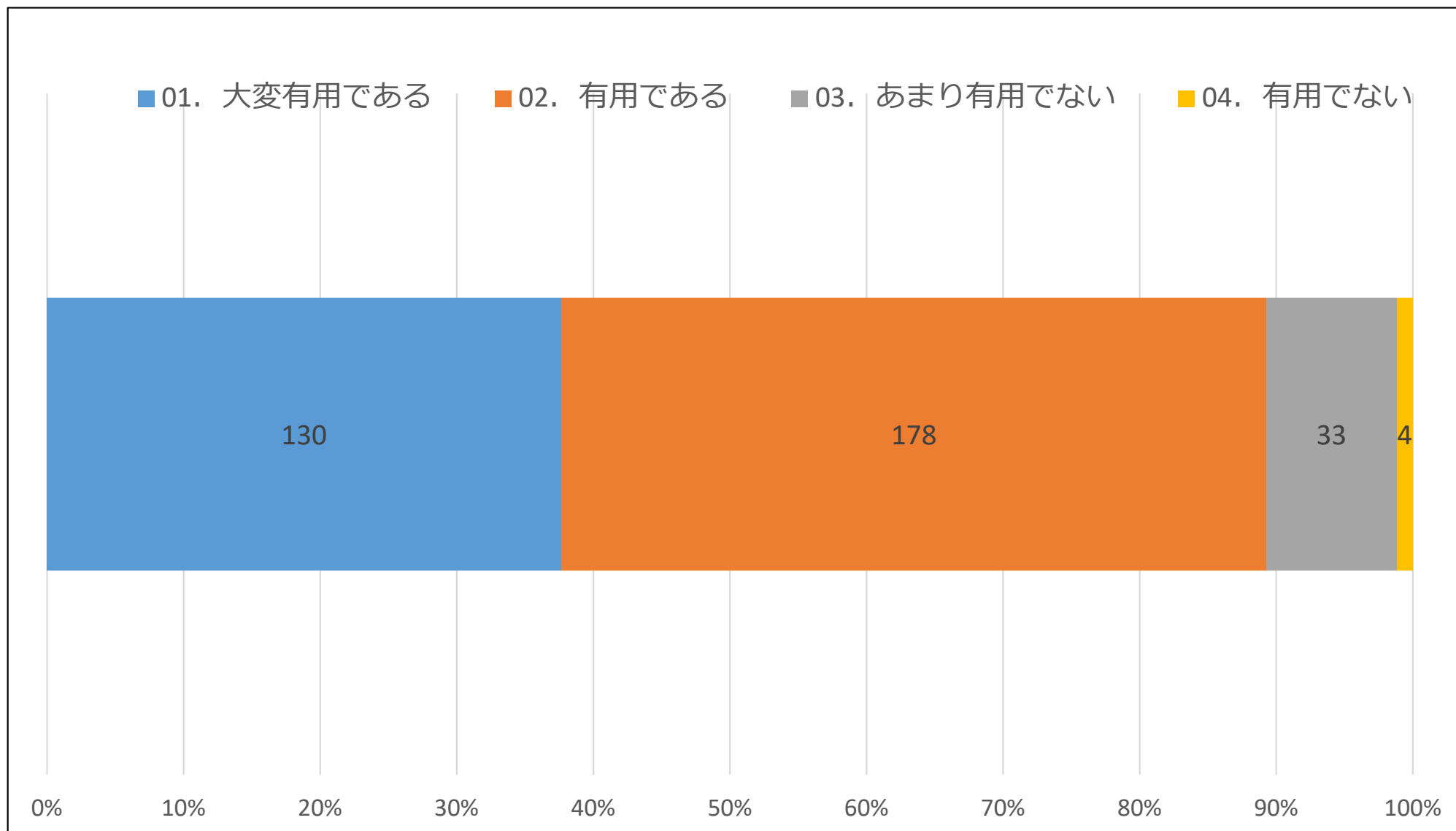
### ▶ 大変有用である / 有用である

- ▶ 研究データ管理について、このように情報がまとまっていることはなかなかなかった
- ▶ ほぼ知識ゼロの分野で業務経験も全くないため、一通りの知識をこの研修で得たことは有意義であった
- ▶ 研究支援系や教員と話す時に必要な知識であると感じた
- ▶ 図書系というより図書系が他部署と連携するときに必要な知識と感じた

### ▶ あまり有用でない / 有用でない

- ▶ 研究及びそれに関する事務に関係していない者にとって、難解で利活用できない講座だった
- ▶ 大学図書館が、オープンサイエンス時代という論文のみならずデータの保存、共有という段階に入ってきているところまでは、認識できたが、高レベルでの話という感じがする
- ▶ 本学の学術情報の現状では、学園内の理解を得るところまではまだまだ遠い道のりだと思った。無知の知を感じる

## ②受講後アンケート： 初心者にとって有用であると考えられますか



## ②受講後アンケート：

初心者にとって有用であると考えられますか(理由)

---

### ▶ 大変有用である / 有用である

- ▶ 内容がわかりやすいので、知識のない初心者でも正しいRDMの認識・定義を本講座を通して共有できると感じた
- ▶ 初心者から学べるように基礎から教わることで、動画のスピード、時間もちょうどよいと思うから
- ▶ 用語の説明や、大事な点の確認テストなど、わりとハードルが低い印象がある

### ▶ あまり有用でない / 有用でない

- ▶ 大学で研究をした経験がないとわからない部分が多い
- ▶ 研究データ管理については、まずは、大学生、大学院生などが研究不正に対する学習と一緒にすることからはじめ、研究データ管理計画を研究室単位で学生が試行することから始めることにより10年後には、基本的知識の普及が進むと思う
- ▶ 大学関係者のかかわりは、研究者の研究データ管理への理解があってこそうまくいくと思います

---

## 新教材の開発



# 「研究データ管理サービスの設計と実践（仮）」

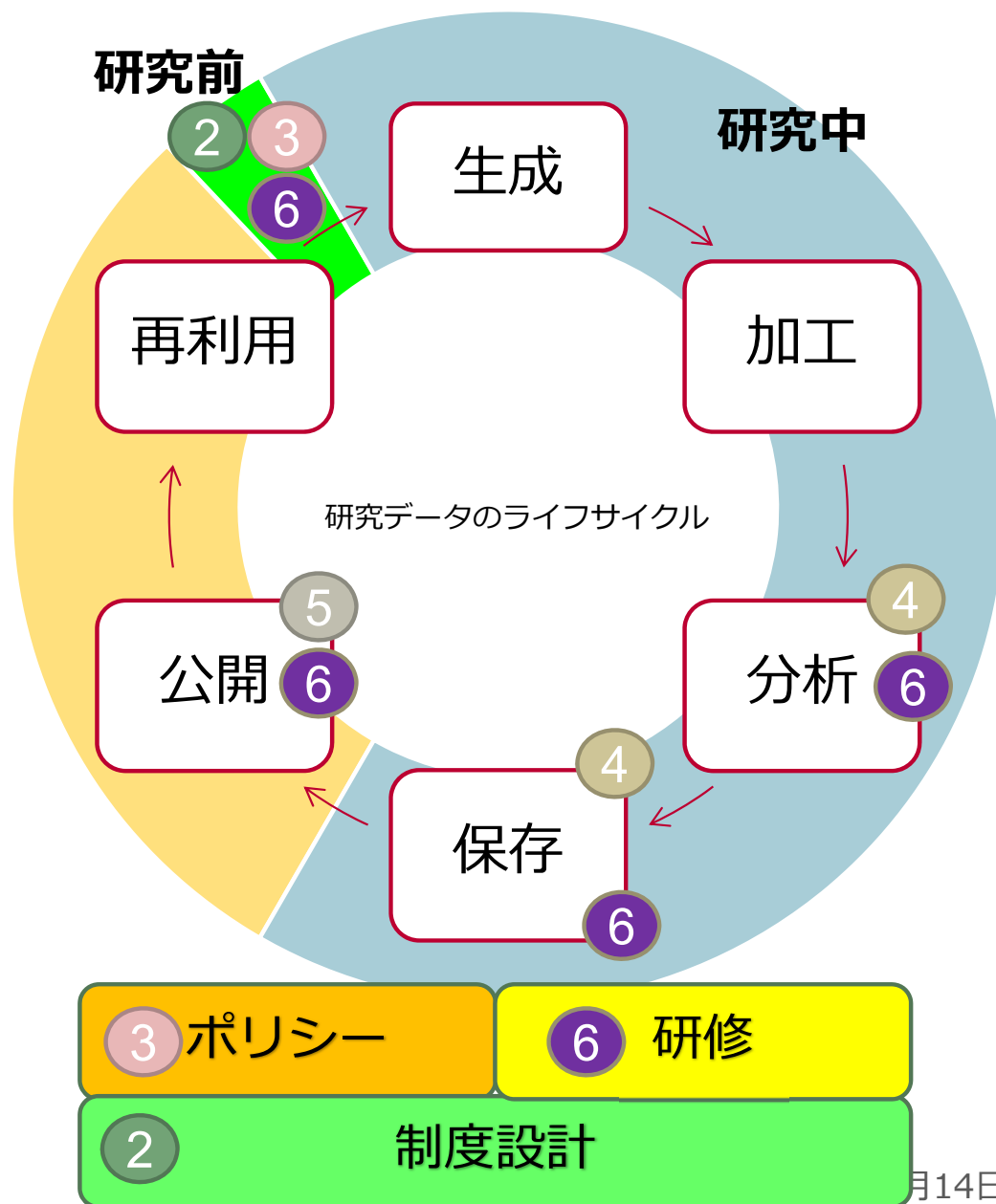
---

- ▶ 研究支援者（図書館員、URA、技術スタッフ等）のための教材
- ▶ 研究プロセス（研究前、研究中、研究後）に沿って、サービスの設計と実践について学ぶ
- ▶ NIIが開発中の新オンライン学習プラットフォームから公開予定

# 章構成（案）

章	内容
第1章：序論	<ul style="list-style-type: none"><li>研究データ管理に関する基礎的な知識を学ぶ</li><li>研究データとは、研究データ管理とは、研究データ管理の重要性が増している背景、ポリシーなどについて学習する</li></ul>
第2章：サービス設計	<ul style="list-style-type: none"><li>自機関の実情に合ったサービスを設計するために必要なことを学ぶ</li><li>Data Asset Framework（データ資産フレームワーク）の活用法について学習する</li><li>また、研究データ管理に関する自機関のポリシーの策定する際の支援についても学ぶ</li></ul>
第3章：研究前の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>研究者が研究を開始する前段階で、どのような支援が求められているかについて学ぶ</li><li>研究資金配分機関等が求めるDMP（データ管理計画）の作成支援について、ツール類の活用も含めて学習する</li></ul>
第4章：研究中の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>研究者が研究を実施している最中に求められる支援について学ぶ</li><li>利用可能なデータの発見、取得したデータの適切な保管方法、データ解析などに関して、どのような支援ができるかを学習する</li><li>また、論文投稿の際に必要なデータの取扱いについても学ぶ</li></ul>
第5章：研究後の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>研究終了後に、得られたデータを保存し、公開することについて学ぶ</li><li>データの公開前に行うべきこと、データの公開場所としてのデータリポジトリの選定などについて学習する</li><li>また、公開するデータに付与すべきメタデータ、識別子、ライセンスなどについても学習する</li></ul>
第6章：日常的な支援	<ul style="list-style-type: none"><li>研究データ管理に関する調査、教育、広報の手法について事例に基づいて学ぶ</li><li>教育については、支援者向け、研究者向け、大学院生向けの研修方法のあり方を習得する</li></ul>

# 研究データのライフサイクルと本教材との関係



## 1章 序論

- 2 2章 サービス設計
- 3 3章 研究前の支援
- 4 4章 研究中の支援
- 5 5章 研究後の支援
- 6 6章 日常的な支援

- The UK Data Archive  
( <http://www.data-archive.ac.uk/create-manage/life-cycle> )
- RDM Support - basic training course for information specialists  
( <http://dx.doi.org/10.6084/m9.figshare.1285313> ) を元に加工作

# 図書館での教材の活用方法

---

- ▶ 自己研修
  - ▶ 基礎的な知識の習得
- ▶ リテラシー教育での活用
  - ▶ 大学院生や若手研究者向けに
- ▶ 学内研修での活用
  - ▶ 研究者やURAや技術スタッフとの意識共有
- ▶ フィードバックによる教材の進化（深化）
  - ▶ 活用事例における知見を新教材開発へ